

わが看護学部の開設が平成23年4月であり、この「聖泉看護学研究」第1巻はその年度末に刊行された。この雑誌の使命としては、第1に先生方の研究成果を発表することであるが、第2には大学院の創設に必要な先生方の業績を確たるものとするものであった。とくに後者は、平成27年4月開設を目指す筒井裕子学長の意向に沿ったものであり、先生方からは、実習が始まったにもかかわらず、多くの研究論文のご投稿をいただいた。

この学術誌は学部出版物でありながら、「紀要」ではなく、あえて「Journal」の語を加えて「聖泉看護学研究 (Seisen Journal of Nursing Studies)」とし、学外の先生方に査読をお願いしている。このことは創刊号にも記したように筒井裕子学長の示唆によるものであり、この雑誌が学術誌としてのレベルに達し、それを維持して行くことを目指している。学外の先生方には原著論文と研究ノートに加えて、諸報告までも査読をお願いしてきた。後者については御迷惑かもしれないと内心では恐々としながらであったが、細かい点までもご指摘いただいた。こうしたことから、この雑誌は学外の先生方により育ていただいたといっても過言ではない。ここに深謝の意を捧げたい。

創刊から3年間、編集委員の先生方には大変な御尽力をいただいた。ほのぼのとした優しさに裏打ちされた行動力の結集が、これまでの3巻の刊行を可能にしたことを思い、言葉に尽くせないほどの感謝の意を表したい。

新年度からは、流郷千幸先生を委員長とする新しい編集委員会により第4巻の編集がスタートする。関係の皆様方には新しい編集委員会に、これまで以上のご支援を賜るようお願いする次第である。

委員長 石 田 英 實